



世界津波サミット終了の報告

10月31日と11月1日に和歌山市で開催された、「世界津波の日」2018 高校生サミットで議長を務めた本校2年生の伊森安美さんが、同じく議長を務めた日高高校の中井充歩さんとともに、11月22日に東京の文部科学省や気象庁などを訪れました。二人は、津波防災についてのスタディツアーや議論をとおして、「日本の津波の歴史や防災・減災の取組を学ぶとともに、「災害から命を守る」、「災害に備える」、「災害から生き抜く」の3分野に分かれて討議をし、最終的にはサミット全体の成果文書として「稲むらの火承継宣言」を採択したことを報告しました。

さらに12月6日には串本・古座川町、12月19日には和歌山県を表敬訪問しました。県への報告では、伊森さんは仁坂知事から感想を求められ、「世界中の人をつなげる役割と、浜口梧陵の精神を世界中に広げることができた」とや、「世界の人々と関わる仕事をしてみたい」と今後の抱負を述べました。

今回のサミットでは学校としても、10月30日にJR串本・新宮間の列車内で行われたスタディツアーに参加し、貴重な体験をすることができました。このような体験を通じて、高校生たちが、将来、地震・津波の影響を最小化し、防災・減災分野における主導的な役割を担うリーダーとして活躍することが期待されます。伊森さんを始め、参加・協力した皆さん、あらためてご苦労様でした。



義援金

12月7日(金)に、生徒会執行部の8名が串本町役場を訪れ、文化祭での売上金や募金箱を設置するなどして集めた18,704円を、平成30年7月豪雨災害義援金として、田嶋勝正町長に託しました。町長からは「高校生がこのような活動に積極的に取り組んでくれることをうれしく思う」という感謝の言葉をいただきました。募金活動にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



吹奏楽部アンサンブルコンテスト

12月23日(日)に串本町文化センターにて行われた、第47回和歌山県アンサンブルコンテスト紀南地区大会に、本校からは打楽器五重奏が出場しました。本番では練習の成果を遺憾なく発揮し、県大会へ出場することになりました。県大会でも活躍を期待しています。



終業式及び各種表彰

終業式では校長先生から、2学期の振り返りの話がありました。その中で、2学期始業式で話をされた「5つのC (condition (状況)、combination (組み合わせ)、control (目標に向かって自分の心と体をコントロールする)、concentration (集中)、confidence (自信))」の話もありましたが、生徒たちも内容を覚えていて、校長先生の問いかけに、何人かの生徒が思い出して、答えてくれました。

あわせて行った各種表彰では、世界津波サミット関係の賞状伝達、演劇部、柔道部、弓道部の県大会での上位入賞の褒賞が行われました。各部の上位大会での活躍を期待しています。



演劇部公演

12月16日(日)に串本町の田並劇場で、本校演劇部の冬公演を行いました。今回の作品『こたつ劇場』は古座校舎3年の出口琴子さんの創作脚本で、今年度の県高校演劇祭で第2位優秀賞を受賞し、11月に行われた第38回近畿高校総合文化祭徳島大会に和歌山代表として出場、上演した作品です。審査員からは「自然なやりとりと実在感が素晴らしい」との講評をいただいています。キャストは1年生の田川愛里さんと吉川和葵さん、3年竹内玲奈さんと1年花尻葵さんが照明を担当しました。これは、不登校の中3生二人による対話劇で、その題名のとおり、こたつで二人が、語り合いながら話が進んでいきます。

公演が行われた田並劇場は、串本町田並のJR田並駅前で1950～60年代に使われ、その後閉館となっていました。これを、東京から田並に移り住んだ林憲昭夫妻が修復を手掛け、再建したものです。レトロ感あふれる劇場での若者二人による演劇は、非常に新鮮なものでした。

公演にお越しいただいた皆様、またご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

